

平成29年度前橋市財務諸表（統一的な基準） 概要版

作成基準日：平成30年3月31日（出納整理期間収支含む）
 作成範囲：①一般会計等・・・一般会計に、地方財政状況調査上の公営事業会計以外の特別会計を加えて作成（地方公共団体の財政の健全化に関する法律第2条第1号に規定する「一般会計等」）
 ②全体・・・一般会計等に特別会計を含めたもの
 ③連結・・・全体に外郭団体（うち第三セクターについては、市の出資率が50%以上の団体が対象）を含めたもの

平成31年3月
前橋市財務部財政課

貸借対照表 (BS:バランスシート)

年度末までの時点でこれまで積み上げてきた資産と、その資産をどのような財源でまかなってきたかを表すもの (単位：億円)

区分	一般	全体	連結	区分	一般	全体	連結
資産（これまで形成してきた資産）				負債（将来世代が負担する額）			
1 固定資産	7,134	8,980	9,003	1 固定負債	1,610	2,571	2,581
①有形固定資産	7,020	8,755	8,784	①地方債	1,418	2,010	2,010
②無形固定資産	1	40	40	②退職手当引当金	180	184	188
③投資その他の資産	113	185	179	③その他	12	377	383
2 流動資産	115	250	269	2 流動負債	164	232	237
①現金預金	35	110	128	①1年内償還予定地方債	137	190	190
②未収金	7	27	28	②未払金	0	12	16
③基金	71	71	71	③その他	27	30	31
④その他	2	42	42				
				負債合計	1,774	2,802	2,818
				純資産（現在までの世代が負担した額）	5,475	6,428	6,454
				純資産合計	5,475	6,428	6,454
資産合計	7,249	9,231	9,272	負債・純資産合計	7,249	9,231	9,272

資金収支計算書 (CF:キャッシュフロー・ステートメント)

貸借対照表における「資金」について、その収支を性質別に表したものの現金の流れを示します (単位：億円)

	一般	全体	連結		一般	全体	連結
前年度末資金残高	23	90	108	本年度末資金残高	35	110	128
当期資金収支							
収入区分				支出区分			
業務活動収入	1,096	2,068	2,390	業務活動支出	1,018	1,901	2,221
投資活動収入	162	181	183	投資活動支出	248	313	318
財務活動収入	159	185	185	財務活動支出	145	206	207
収入合計	1,417	2,434	2,758	支出合計	1,411	2,420	2,746

収支		
一般	全体	連結
78	167	169
△86	△132	△135
14	△21	△22
6	14	13

本年度末	一般	全体	連結
歳計外現金残高	6	6	6

行政コスト計算書 (PL:プロフィット&ロス・ステートメント)

経常的な活動に伴う費用とそれに対応する収入を示すもの
減価償却費など現金の動きを伴わないものも費用として含める (単位：億円)

区分	一般	全体	連結	区分	一般	全体	連結
経常費用 A	1,127	2,083	2,405	経常収益 B	77	385	401
①人件費	211	232	253				
②物件費等	384	691	697				
③その他業務費用	19	42	50				
④移転費用	513	1,118	1,405				

区分	一般	全体	連結
純経常行政コスト C (A-B)	1,051	1,698	2,004
臨時損失 D	3	3	3
臨時利益 E	2	3	3
純行政コスト F (C+D-E)	1,051	1,698	2,004

純資産変動計算書 (NWM:ネットワークスマトリクス)

純資産が1年間でどのような要因で増減したかを明らかにするもの (単位：億円)

	一般	全体	連結		一般	全体	連結
前年度末純資産残高 M	5,441	6,347	6,373	本年度末純資産残高 N (L+M)	5,475	6,428	6,454

区分	一般	全体	連結	純資産の増加要因	一般	全体	連結
純行政コスト F	1,051	1,698	2,004	資産評価差額 I	0	0	0
財源 G	1,068	1,736	2,041	無償所管換等 J	17	20	20
①税収等	757	1,210	1,358	その他純資産変動額 K	0	23	24
②国県等補助金	311	526	683				
本年度差額 H (G-F)	17	38	37	本年度純資産変動額 L (H+I+J+K)	34	81	81

財務状況分析

基礎的財政収支(プライマリーバランス)は黒字となっているか ※支払利息除く
(CF 業務活動収支 + 投資活動収支 > 0 であるか)

一般	5億
全体	61億
連結	61億

業務活動収支に一定の余裕があり、資本・財務的収支に振り向けることができるか
(CF 業務活動収支がプラスであるか)

一般	+78億
全体	+167億
連結	+169億

固定資産の取得からどの程度経過しているか
(100%に近いほど老朽化程度が高い)

一般	62.1%
全体	56.8%
連結	56.8%

負債の返済余力がどのくらいあるか
(負債比率が低いほど、返済余力が高い)

一般	32.4%
全体	43.6%
連結	43.7%

純資産比率を高く保ち、財政の健全性が確保できているか
(BS 純資産比率(純資産÷総資産)が高ければ高いほど健全)

一般	75.5%
全体	69.6%
連結	69.6%

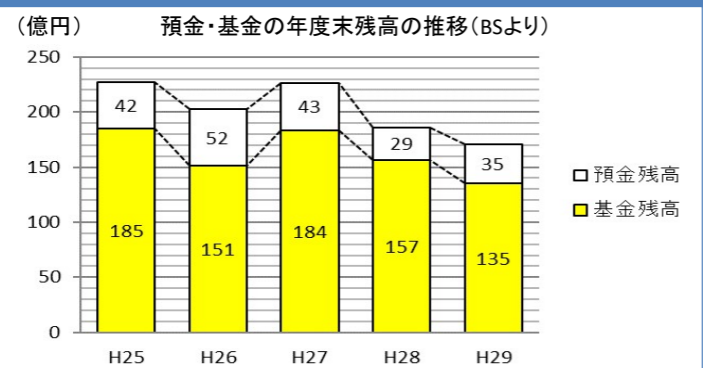
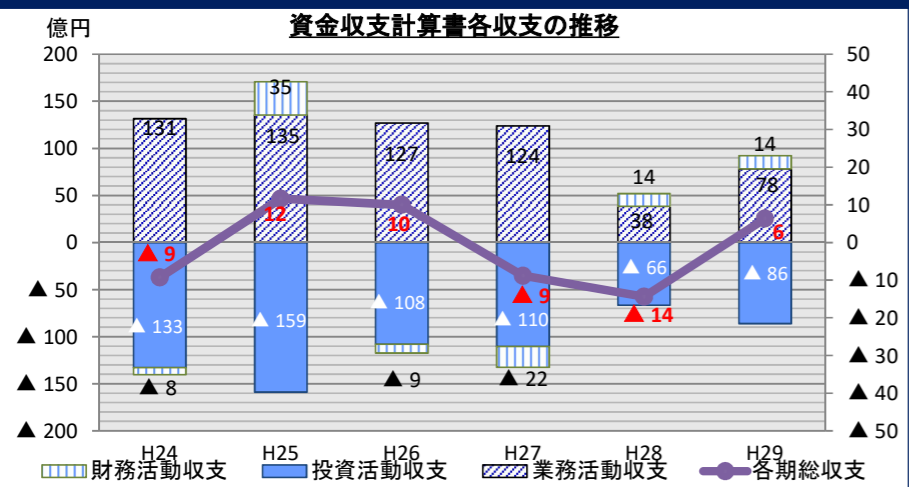
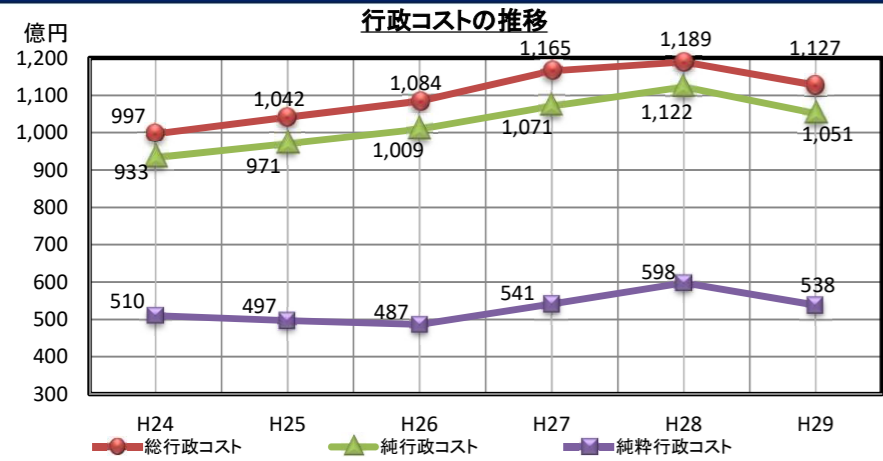
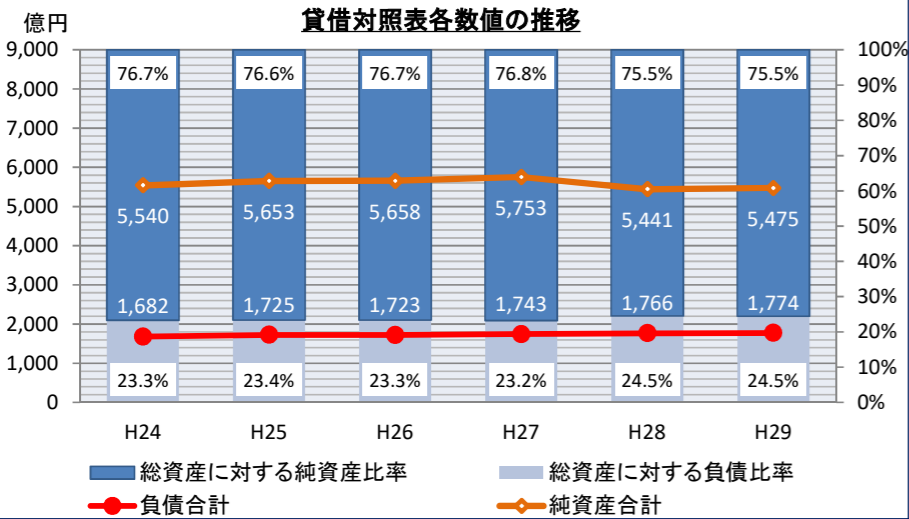
将来世代が負担する割合はどれくらいか
(将来世代負担比率が低いほど健全)

一般	22.2%
全体	25.1%
連結	25.0%

※表示単位の端数処理（四捨五入）により、合計等が一致しない場合があります。

※財務状況分析や各指標の算出方法については、今後変更となる可能性があります。

一般会計ベース



< 各指標の経年比較 >

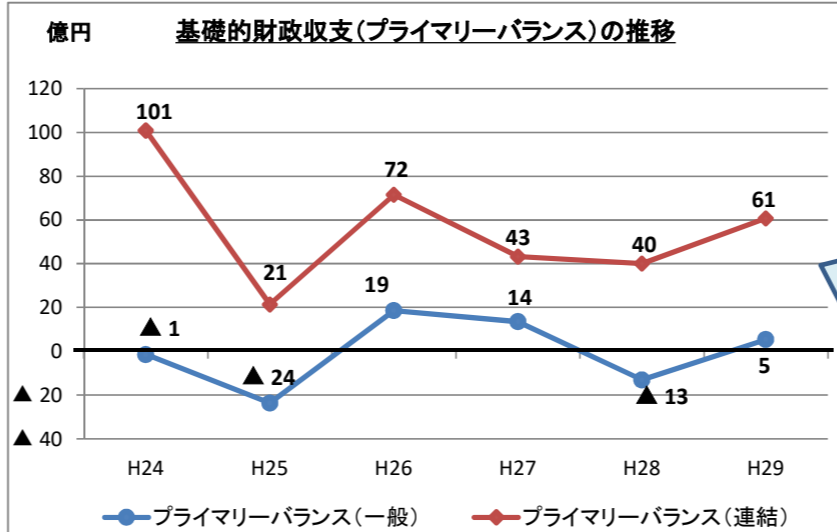
資産は、平成28年度から財務諸表作成モデルを変更し、昭和59年以前に取得した土地などの金額を1円としたこと等により大幅に減となっています。平成29年度は六供清掃工場の延命化工事などによりインフラ資産が増加しました。負債は毎年、増加傾向にあります。これは、本来、国から交付されるべき普通交付税を臨時財政対策債として公債発行しているためです。臨時財政対策債は、その償還費を将来の普通交付税で全額交付されるルールとなっています。

関連団体を含めた連結ベースでは、上下水道会計の企業債残高の減等により、負債合計額が平成25年度までは減少していましたが、平成26年度は地方公営企業会計基準の見直しにより、上下水道会計の流動負債(前受金及び前受収益)が新たに発生したため、負債合計額が大幅に増加し、純資産合計額が大幅に減少となっています。平成29年度は一般会計におけるインフラ資産等の増により資産が増加し、一方で上下水道会計における企業債残高の減等により負債も微減したため、純資産比率は0.4%改善しました。

一般会計ベースでの行政コストは、平成24年度から平成28年度までは増加傾向が続いていました。平成25年度は土地開発公社解散に伴う代位弁済、平成26年度は大雪被害に対する補助金、平成27年度は認定こども園への施設型給付費、平成28年度は社会保障給付費や人件費、建物などの減価償却費も増加したことが要因となっています。平成29年度は減少しており、退職手当引当金繰入額や維持補修費、補助金等が減少したことが主な要因となっています。

連結ベースでは、一般会計に加え、介護保険や国民健康保険などの特別会計が加わるため、社会保障関連経費等の増加により、平成25年度から平成28年度までは行政コストが増加傾向にありました。平成29年度は一般会計における退職手当引当金繰入額、維持補修費、補助金等の減に加え、競争特別会計における勝者投票券販売収入の増などによる経常収益の増により、純行政コストは減少しました。

投資活動支出には長期金融資産形成支出(基金積立としての支出)を含んでいるため、投資活動的収支がマイナスであるからといって財務状況が悪化しているわけではありません。一般会計等において、物件費等支出が平成28年度と比較して、約27億円減となったことなどから、平成29年度は平成28年度より総収支が増加しており、投資活動的収支のマイナスを、財務活動的収支や業務活動的収支のプラスで賄っています。



基礎的財政収支(プライマリーバランス)とは・・・
過去の借入の償還支出と、新たな公債発行収入を除いた収支
(業務活動収支(支払利息支出除く)+投資活動収支)
⇒ゼロ以上であれば、公債に依存しない財政運営が行われたことになります。
※一般会計ベースのプライマリーバランスについては、特に平成25年度は土地開発公社解散に伴う代位弁済の影響により数値が悪化し、また、平成28年度は地方消費税交付金等の業務収入の減及び市民文化会館改修事業や小・中学校校舎等耐震補強事業等の市債を財源にした事業の実施により数値が悪化しました。平成29年度は、臨時福祉給付金の減及び職員給与費の減などにより、業務支出が減少したため、プライマリーバランスは改善しました。

連結会計ベース

